

⑮ 国道136号雲見～松崎工区における富士見橋架設工事

受賞機関 静岡県 下田土木事務所

キーワード 景観保全、竹割型土留工法、コンクリート着色

全建賞審査委員会の評価ポイント

名勝伊豆西南海岸における橋梁の新設工事。橋脚部の竹割型土留工法により地形改変を最小限に抑えつつ、コンクリート構造物は顔料の練り込みや表面塗装の実施、緑化ブロックの採用などにより、名勝景観の保全と道路整備事業を両立させている点が評価された。

1. はじめに

静岡県の伊豆半島西岸を通過する国道136号は、下田市を起点とし三島市を終点とする全長約130kmの一般国道である。このうち、賀茂郡松崎町内において幅員の狭い箇所や防災対策の必要な箇所を優先に防災・安全交付金事業により道路整備を進めている。事業区間は、入り組んだ美しい海岸線を有し、「富士箱根伊豆国立公園」、名勝「伊豆西南海岸」に指定されていることから、景観保全と円滑な交通確保を両立しながら事業を実施し、令和元年9月、富士見橋架設工事が完成した。

2. 事業の概要

国道136号は、伊豆半島地域の幹線道路として地域住民の生活道路及び地域の主要産業である観光業を支えるインフラとして重要な役割を担っている。しかし、当該区間は大型車のすれ違いが困難な箇所が多く、大雨時には落石、倒木、斜面崩壊等により通行止めとなり、迂回路もないため日常生活に与える影響が大きい。

本事業は幹線道路機能の充実を図るとともに、安全安心に利用できる道路環境の実現と名勝及び国立公園の景観と調和を図りながら道路拡幅、線形改良を進めている。



駿河湾から望む富士見橋

3. 事業の成果

景観保全と道路整備事業を両立させることを目的とし

て、有識者による「一般国道136号雲見～松崎拡幅道路整備事業に伴う景観検討会」を立ち上げ、その中で検討された修景対策を踏まえて橋梁を施工した。

橋脚部は竹割型土留工法を採用することで、地形の改変を最小限に抑えた。また、コンクリート構造物は顔料練り込みや表面塗装を実施し、橋脚下部は緑化ブロック積で構造物を目立たなくするとともに、松崎町の花であるツワブキを植栽することで周辺環境との調和を図っている。

修景方法	竹割り土留め内の埋め戻し	コンクリート着色
内容説明	・緑化ブロック積み背後は、周囲に土がこぼれない範囲を安定勾配で埋戻し、竹割り土留めコンクリート面を隠した。	・コンクリートに茶色系顔料を混入、もしくは表面を塗装して明度を下げ、周辺景観との調和を図った。
現地状況		
修景方法	緑化ブロック積み	盛土表面の植生
内容説明	・竹割り土留め、橋脚の下部は緑化ブロック積みにより緑化を行いながら埋め戻して隠した。	・緑化ブロック背後の埋戻した盛土面には、植生（中低木、地被類）により緑化し、橋脚の輪郭を不明瞭にした。 ・道路排水（主に雨水）を供給し、ヤシマツト等により盛土表面に行き渡らせた。
現地状況		

富士見橋における修景対策概要

急峻で入り組んだ海岸に橋梁を架設することにより、景観に対し阻害要因となることが懸念されたが、前述の対策を行うことにより周囲の景観に違和感なく溶け込み、一体化した道路施設とすることができた。

4. おわりに

本事業区間は、令和3年6月に「太平洋岸自転車道」としてナショナルサイクルルートに新たに認定され、当地域の活性化が期待されている。

今後も引き続き、関係者と調整を図りながら景観に配慮した道路整備事業を推進し、安全安心な道を地域住民に提供する。

賛助会員 中央コンサルタンツ(株)